年度 2007　学期 前期	曜日･校時　　月 2	必修選択　　選択	単位数　2
授業科目/(英語名)	人間と文化 （ドイツ近代思想） Humanity and Culture （Modern German Thought）		
対象年次　1･2年次	講義形態　講義	教室	
対象学生(クラス等)　全学部		科目分類　人文･社会科学科目	

担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
担当教員： 菅原潤 /Eﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ:suga@nagasaki-u.ac.jp /研究室：　環境科学部 409 号室
/オフィスアワー：水･13:00～14:30

担当教員(オムニバス科目等)	菅原潤

授業のねらい/授業方法（学習指導法）/授業到達目標

授業のねらい：
戦後におけるドイツと日本の世界的立場を考慮しつつドイツの近代思想を紹介するなかで、今後の日本が歩むべき道筋を選択するうえでドイツ思想の受容が大切であることを考察させる。

授業方法：
講義形式をとる。

授業到達目標：
ドイツの近代思想の特徴を理解する。
戦後ドイツにおいて思想の果たした役割を考察する。
今後日本が取るべき道筋を考察する。

授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む)

授業内容（概要）
ドイツ近代思想からハーバーマスを代表とするコミュニケーション的理性の先駆けをなす思想を読み取り、そこから単なる対米追従になっている日本の姿勢との対比を考察する。

第1回　イントロダクション
第2回　啓蒙とカント（1）
第3回　啓蒙とカント（2）
第4回　フィヒテ
第5回　自然をめぐる問題－カントとシェリング－
第6回　美的コミュニケーションの問題－シラーとシェリング－
第7回　新しい神話－フリードリヒ･シュレーゲルとシェリング－
第8回　ヘーゲルと「芸術の終焉」
第9回　意志の哲学の台頭－その可能性と非合理主義の萌芽－
第10回　ディオニュソス的肯定－ニーチェにおけるニヒリズムの克服－
第11回　ニヒリズムとファシズムの関係－マックス･ウェーバー、カール･シュミットを介して－
第12回　神話に退化した啓蒙－カッシーラー、フランクフルト学派によるナチズム診断－
第13回　道具的理性からコミュニケーション的理性へ－もうひとつの啓蒙への道－
第14回　もうひとつの啓蒙と日本の課題
第15回　まとめ－「アメリカの終わり」を考える－

キーワード	ドイツ、近代、思想、美、コミュニケーション
教科書･教材･参考書	岩崎武雄カントからヘーゲルへ』（UP選書）
成績評価の方法･基準等	レポートによる評価（100%）
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ/学習･教育目標	西洋近代思想に関する知識の獲得
備考(準備学習等)	特になし